

第2節 | 創造的で心豊かなひとづくり

施策7 学校教育の推進

施策の目指す姿

子どもが未来を生きるための力を身に付け、問題解決力や論理的な思考力、想像力、コミュニケーション能力を高めることができる、教育環境の充実した「まち」を目指します。

市の現状と課題

現状

- 市長と教育委員会は、「総合教育会議」で意思疎通を図り、市長の方針として教育大綱を作成し、目標に向けた各種教育施策を推進しています。
- 人格形成の基礎を培う幼児教育の充実に努め、幼稚園・保育所と小学校との間で情報を共有しています。
- 家庭との連携を図りながら、児童生徒が主体的に学習に取り組む姿勢を養っています。
- コロナ禍により需要が高まったICT機器を利活用した授業など、さまざまな学習の展開や指導方法の改善を図り、児童生徒の学習意欲や学力の向上に努めています。
- 食や健康問題などに関する学習指導に取り組むとともに、保健や安全に関する学校・家庭・地域で一体となった指導に努めています。

課題

- 令和3年度(2021年度)の全国学力・学習状況調査では、小学校において改善の傾向にある一方で、中学校における基礎的・応用的な学力がいずれの教科も国・県平均を下回っています。この調査結果を踏まえ、学校での指導方法の更なる改善に継続して取り組む必要があります。
- 児童生徒数は今後も減少することが見込まれることから、小中学校などの規模適正化に向けた継続的な協議が必要です。
- 学校施設や設備の老朽化が進む中で良好な学習環境を確保するため、計画的な改修等を進める必要があります。
- いじめや不登校の問題は、個人の尊重や生命の尊厳に関わる緊急かつ最大の教育課題として捉え、対策を講じることが必要です。
- 学校現場で発生するさまざまな課題に対応するため、地域に応じた創意工夫のある取組により特色ある学校づくりを推進することが必要です。

取組方針

1 教育内容と心の教育の充実

- 学習の基礎・基本を徹底し、子どもの確かな学力を定着させるため、授業と家庭学習のつながりの強化に努めます。
- プログラミング教育や外国語教育の効果を高めるため、教員の指導力向上やALTの配置など学習指導体制の充実に努めます。



- 子どもの豊かな心を育成するため、いのちの教育や道徳教育の充実に努めます。
- 子どもの学びや成長を地域全体で支えるため、開かれた学校づくりの実現に向けたコミュニティ・スクール⁴⁴の充実を図り、地域と学校が相互にパートナーとして連携し協働する地域学校協働活動⁴⁵を推進します。
- いじめや不登校などの問題に対応するため、教員はもとよりスクールカウンセラーや生徒指導支援員等による指導体制を充実させます。また、学校、家庭、地域、警察など関係機関と連携し、解決に向け一体となった取組を推進します。
- いじめ問題については、迅速かつ的確に対応し、必要に応じて第三者による組織を設置するなど、専門的な見地から早期解決や発生防止に向けた対策に取り組みます。
- 学習への困難を示す児童生徒の能力や個性を最大限に伸ばすため、状況に応じた支援員の配置やICTによる学習支援、適切な就学相談など、特別支援教育の充実に努めます。

2 教育施設・環境の整備

- 学校施設や設備について、安心して学習活動に集中できる教育環境とするため、老朽化の度合いや将来の児童生徒数の推移を踏まえた規模適正化の検討を行いながら、長寿命化や大規模改修を進めます。
- デジタル技術の活用などにより、教職員の事務負担の軽減を図ります。
- GIGAスクール構想で整備した一人一台端末を有効活用するため、環境整備に努めます。
- 幼稚園・保育所と小学校が連携を図り、小学校以降の生活や学習基盤の形成につながるよう配慮するとともに、小学校へのスムーズな接続や保護者の安心の確保に努めます。

3 食育⁴⁶と安全教育の充実

- アレルギー対応を含めた安全な学校給食を提供できるよう、民間活力の活用による老朽化した給食センターの設備改修に取り組みます。
- 地元産食材の使用や食の安全性を重視した学校給食を通じ、望ましい食習慣の形成を図ります。また、家庭と連携した食育の推進により、児童生徒の心身の発育や健康の保持増進に取り組みます。
- 通学路の安全点検を実施し、登下校時における事故の未然防止や不審者対策など、児童生徒の安全を確保するとともに、安全教育を進め危険予測や回避能力の向上に努めます。

市民の役割

- 登下校時の安全確保や学校行事等に積極的に関わらしましょう。
- 地域学校協働活動への積極的な参加など、幅広い世代間で交流する場をつくり、地域全体で子どもを育てていきましょう。

関連する個別計画

伊万里市教育大綱
伊万里市食のまちづくり・食育推進基本計画

⁴⁴ コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)：地域住民等が学校運営に参画し、地域と一体となった特色ある学校づくりを進めていくための仕組みのこと。

⁴⁵ 地域学校協働活動：地域住民や学生、保護者、民間企業、団体・機関などの幅広い参画を得て、学校と地域が相互にパートナーとして連携・協働して行うさまざまな活動のこと。

⁴⁶ 食育：さまざまな経験を通し食に関する知識と食を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てること。

施策 8 生涯学習の推進

施策の目指す姿

いつでも自由に学ぶことができる機会の創出や習得した知識・能力を発揮し活用する機会の拡充などにより、市民が生きがいを感じることができる「まち」を目指します。

市の現状と課題

現状

- 伊万里学⁴⁷については、学習機会や情報提供の充実に努め、郷土意識の醸成や地域づくりの担い手の育成を行っています。
- まちづくりの第一線で活躍する身近な大人やまちづくりの仕掛け人などと地域貢献を志す若者をつなぐ取組を行っています。
- 市民図書館では、読書を通じた本市の生涯学習の拠点として、図書資料の収集、提供のほか、市民との協働による事業の実施に取り組んでいます。
- 市民の家読⁴⁸への関心をより一層高めるため、平成28年(2016年)9月に「日本一のうちどく推進のまち・いまり」を宣言しました。
- 令和4年(2022年)6月に教育委員会と小中学校連合PTAが、児童生徒の健全育成や家庭・学校・地域の連携を推進し、教育の充実や発展に寄与することを目的に協定を締結しました。

課題

- 生涯学習への関心が高まり、重要視される一方で、郷土の歴史や文化などの学習講座等への参加者は高齢化・固定化しており、新たな指導者や生涯学習を支える若い世代の人材育成が必要です。
- 子どもの成長についての地域社会の関心を高め、世代間交流により、支え合い共生する地域づくりを進める必要があります。
- コミュニティセンターについては、地域の伝統や文化などを学ぶ生涯学習や地域資源をいかしたまちづくりなど、誰もが利用しやすいコミュニティ活動の拠点として十分に機能するような運営が必要です。
- 生涯学習の拠点となる生涯学習センターおよび隣接する歴史民俗資料館の老朽化への対応を検討する必要があります。
- 日常的に本をよく読む人と、全く本を読まない人の読書の二極化が進んでおり、図書館の利用促進など誰もが本に親しみを持つ取組が必要です。

⁴⁷伊万里学：まちづくりを担う人づくりのため、ふるさと伊万里の歴史を学び、先人の知恵に新たな価値を見いだす学習のこと。

⁴⁸家読：家族や地域で本に親しむ時間と空間を共有すること。みんなで好きな本を読んで、読んだ本について話すなど。



取組方針

1 生涯学習の充実

- 地域学校協働活動の担い手となる人材の掘り起こしに努めるなど、子どもたちの学びや成長を地域全体で支え、ふるさと伊万里への愛着や誇りを高める取組を推進します。
- 市民の生涯学習を支援するため、伊万里学や出前講座などの学習活動の更なる充実を図り、市広報、コミュニティセンター便りなどによる情報発信に努めます。
- 次代の伊万里を担う人材を養成するため、まちづくりの第一線で活躍する大人と若者をつなぐ取組の充実を図ります。
- コミュニティセンターについては、各地区の特色あるまちづくりの拠点としての利活用を促進します。

2 市民図書館の充実

- 自動車図書館「ぶっくん」による巡回サービスやコミュニティセンター窓口での本の受け取りなど、本市ならではのサービスの推進により、あらゆる世代での図書館の利用拡大を図ります。
- 図書館フレンズいまりや多くの図書館利用者、図書館協議会との連携を進め、多方面から読書活動の啓発に努めます。
- 市民が抱えるさまざまな課題の解決を図るため、図書資料の充実を図り、調べもの支援などの相談業務や専門機関への案内など、各種サービスの充実や強化に努めます。
- 市民図書館と学校図書館との連携により、児童生徒が行う調べ学習⁴⁹の充実を図ります。
- 読書バリアフリー法に基づき、視覚障がいなどで文字・活字が読めない人にも対応できる資料を備え、誰もが利用しやすい読書環境の整備に努めます。

3 家庭教育の支援

- 小中学校連合PTAとの連携により、児童生徒と保護者、地域等が一体となった取組の支援をさらに進め、家庭における教育力の向上を図ります。
- 家族で本を読んで語り合い絆を深めるため、「日本一のうちどく推進のまち・いまり」宣言に基づいた幅広い取組を進めます。

市民の役割

- 生涯学習の場として、コミュニティセンターや図書館などを積極的に利用しましょう。
- 学習講座等に積極的に参加しましょう。
- 習得した知識や技能等を地域の活動にいかしましょう。
- 家読など子どもとの触れ合いを通じて、家庭の教育力を高めていきましょう。
- 大人自身が、子どもの読書を支え育てる役割を理解し具体的に行動しましょう。

関連する個別計画 伊万里市教育大綱
伊万里市子どもの読書活動推進計画

49 調べ学習：様々な資料から必要な資料を探し出すための技術やスキルを学ぶためだけでなく、その情報の中から主体的に目的にあった情報を選び取り、それを分析・評価して情報を再構成、検証し発表していくこと等を目的とした学習活動のこと。

施策 9 青少年の健全育成の推進

施策の目指す姿

地域ぐるみの見守りや支援体制の充実などにより、青少年が健全に育つことができる「まち」を目指します。

市の現状と課題

現 状

- 警察や青少年育成市民会議などの関係機関等と連携し、インターネットの利用に関する危険性や個人情報などの自己管理の重要性についての啓発に取り組んでいます。
- 地区防犯協会を中心に組織された子ども見守り隊と協力し、地域における有害環境の点検や市街地での巡回パトロールを実施しています。
- 子どもやその家族が気軽に悩みを相談できるような体制を整備しています。
- 自然体験学習活動となるキャンプ事業を実施するなど、青少年の健全な育成に取り組んでいます。
- 放課後や週末における子どもの安全で安心な活動の拠点としてコミュニティセンター等を活用し、世代間交流によるスポーツや文化活動などに取り組んでいます。

課 題

- SNSなどインターネット利用者の低年齢化や利用の長時間化に伴い、有害情報の拡散、犯罪被害や誹謗中傷などのトラブルが深刻化する中、犯罪等を未然に防ぐため、大人がその現状を理解し、監督、保護する力を養うとともに、関係機関等と連携した対応を行うことが必要です。
- 放課後および休日における子どもの居場所づくりについては、放課後子ども教室の拡充など、地域の実情に合った取組を進めることが必要です。
- コロナ禍により中止が続いた地域行事等において、子どもの参加者が減少し、指導者も不足しているため、実施方法を見直すとともに、新たな指導者を育成することが必要です。
- 非行少年の更生支援活動において、地域での雇用先の確保などが必要です。



取組方針

1 非行防止活動の推進

- SNSなどインターネットの利用に潜む危険性や自己管理の重要性について、家庭や学校、地域、関係機関との連携により、情報モラル教育や啓発活動に取り組みます。
- 地区防犯協会を中心として組織された子ども見守り隊と協力し、地域ぐるみで子どもの安全・安心の確保に努めます。
- 各地区の青少年育成町民会議など関係団体等と連携し、地域における有害環境についての点検活動や巡回パトロールに取り組みます。
- 青少年や保護者が抱える複雑多岐にわたる悩みについて、青少年相談室を中心として、学校や関係機関と連携した対応を図るなど、相談体制の充実に努めます。

2 健全育成活動の推進

- 青少年育成市民会議などの青少年育成団体や市内企業等との連携や協力体制の更なる強化を進め、地域ぐるみでの支援体制の充実に努めます。
- 小中学校連合PTAとの協定に基づき、より一層の連携と協力の強化を図り、児童生徒の健全な育成に努めます。
- 放課後および休日における子どもの居場所づくりや地域の大人との交流、郷土愛教育の実践の場として、コミュニティセンターを中心に地域の特色をいかした取組を進めます。
- 自然体験学習活動については、実施時期や体験メニュー、実施方法について改善を図るとともに、新たな指導者の掘り起こしと育成に努めます。

市民の役割

- 子どもを地域で守り育てるという意識を持ちましょう。
- 地域でのあいさつなど、子どもと積極的に対話しましょう。
- 青少年育成団体などの活動に積極的に参加しましょう。
- 子どもがSNSなどインターネットを適切に利用できる環境づくりに努めましょう。

施策 10 文化芸術・スポーツの振興

施策の目指す姿

市民が生涯にわたり心身ともに健やかに、生きる喜びや楽しさ、安らぎを感じながら充実した生活を送ることができる「まち」を目指します。

スポーツツーリズムの推進等により、交流人口が増加する「まち」を目指します。

市の現状と課題

現状

- 伊万里市美術展や市民音楽祭は、新型コロナウイルス感染対策等を考慮した新たな開催方法を検討し、市民が文化に触れる機会を確保するとともに、自発的な団体活動の支援を行うなど市民の文化活動を促進しています。
- 市内企業における外国人技能実習生や訪日外国人観光客など外国人や異文化と関わる機会が増えており、本市においても国際化が進んでいます。
- 友好交流都市である中国・大連市との相互訪問などに取り組んでおり、それぞれの文化をいかした親交を深めています。
- 伊万里ハーフマラソンや伊万里ウォークについては、新たな手法の活用などにより、市内外から多くの参加者を集めており、スポーツツーリズム⁵⁰の推進を図っています。

課題

- 文化活動やスポーツ活動については、コロナ禍における活動の中断、人口減少や価値観の多様化に伴う担い手の減少などにより、市民の活動の受け皿となる文化連盟やスポーツ協会などの団体の活動力の低下が懸念されるため、団体との連携を図り、市民の関心を高め理解を深める取組が必要です。
- 文化活動やスポーツ活動に取り組む場となる各種施設の老朽化が進んでおり、利用実態を踏まえ利用者の安全を第一に考えながら、改修を行っていく必要があります。
- 本市在住の外国人について、生活者としての日本の生活ルールや防災に関する教育などを行っていく必要があります。

取組方針

1 文化活動の推進

- 文化活動に関する情報と実践の場を提供するとともに、優れた文化芸術の鑑賞機会を確保するなど、市民の文化への関心を高める取組を推進します。
- 本市の文化振興を図るため、若い世代が所属する新たな団体等の掘り起こしに取り組むほか、伊万里市美術展や市民音楽祭を開催し活動の成果を発表する機会を設けるなど市内の文化芸術団体の活動を支援します。
- 児童生徒の持続可能な文化芸術環境を整備するため、部活動の地域移行化や全国大会等の出場への支援などに取り組みます。

50 スポーツツーリズム：スポーツと観光の融合のこと。



2 多文化共生⁵¹の推進

- 大連市との友好交流について、これまで培ってきた友好の絆をいかし、若い世代をはじめとした各種交流事業に取り組みます。
- 世界に開かれた地域社会づくりを目指し、市民と外国人の交流事業を開催するほか、地域日本語教室⁵²などを通して日本人も外国人も地域の一員として共に認め合う多文化共生社会の構築を図ります。

3 スポーツ活動の推進

- 伊万里ハーフマラソンや伊万里ウォークなどのスポーツイベントへの市内外からの参加者の増加を図ります。また、スポーツツーリズムの視点から、さまざまな観光資源を活用し、交流人口の拡大につなげます。
- 令和6年(2024年)に開催される国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会佐賀大会を契機として、市民のスポーツへの関心を高め、スポーツ参画人口の拡大と各種目の競技力向上を図ります。
- 老朽化したスポーツ施設については、施設の集約や再配置を視野に計画的な改修に取り組み、よりよいスポーツ環境の整備に努めます。
- 多世代の交流やにぎわいを創出するための施設として、改修した国見台球技場や新設した松浦町のスポーツ・レクリエーション施設などを有効に活用します。
- 児童生徒の持続可能なスポーツ環境を整備するため、部活動の地域移行化や全国大会等の出場への支援などに取り組みます。

市民の 役割

- 文化芸術への関心を持ち、みずから活動しましょう。
- 本市在住の外国人等と積極的に交流することにより、互いの価値観を認め、国際理解を深めましょう。
- 年齢や体力に応じて、気軽にスポーツに親しみましょう。
- 地域で開催されるスポーツ活動に積極的に参加することにより、地域の活力を育みましょう。

関連する個別計画

伊万里市教育大綱

51 多文化共生：国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的な違いを認め、対等な関係を築こうとしながら、共に生きていくこと。

52 地域日本語教室：外国人が生活等に必要な日本語能力を身に付けられるよう、地方公共団体が関係機関等と連携し日本語教育環境を強化する総合的な事業のこと。

施策 11

人権教育と啓発の推進

施策の目指す姿

同和問題をはじめとするさまざまな人権問題の解決のため、人権教育・啓発を推進し、市民ひとりひとりの人権が尊重される「まち」を目指します。

市の現状と課題

現状

- 伊万里市人権教育・啓発に関する基本方針に基づき、各施策において人権尊重の視点から、総合的に人権教育・啓発に向けた取組を実施しています。
- 関係機関や団体等との連携により、人権に関する研修会や講演会を開催し、人権問題の解決に向けた取組を進めてきた結果、同和問題をはじめとするさまざまな人権問題への市民の正しい理解と認識は徐々に深まりを見せているものの、予断と偏見、潜在意識としての差別観念は依然として根強く、また一定の無関心層も存在しています。
- インターネットの普及や新たな感染症の流行などの社会情勢の変化に伴い、人権問題は複雑化、多様化、深刻化しています。
- 職場や学校などの身近なコミュニティにおいてもハラスメント⁵³は存在しており、その内容は多岐にわたっています。

課題

- 「同和問題は解決した。過去の問題である。」という誤った考えがあるため、正しい理解と認識を深めることが必要です。
- 誹謗中傷や差別的な書き込みなど、インターネットを悪用した人権侵害から市民を守るための対策に取り組むことが必要です。
- 今後深刻化が懸念される、外国人、性的マイノリティ⁵⁴や感染症に関連した偏見や差別など、新たな人権問題への対策が必要です。
- 学校や職場、地域等あらゆる場や機会を捉えた人権教育や啓発活動を継続的に進めるとともに、人権教育を推進する指導者の資質向上や地域の実情に応じた教育内容の充実を図ることが必要です。
- 人権侵害による被害者等への的確な支援が必要です。

取組方針

1 同和問題の解決促進

- 部落差別の解消の推進に関する法律に基づき、関係機関や団体との連携により、「差別の現実に学ぶ」ことに重きを置いた教育や啓発を推進します。
- 同和問題についての市民の正しい理解と認識を深めるなど、早期解決を図るための効果的な取組を推進します。

53 ハラスメント：いろいろな場面における「嫌がらせ」「相手を悩ませること」などのこと。セクシャルハラスメント、パワーハラスメントなど。

54 性的マイノリティ：性的指向および性自認に関して少数派の人々のこと。一般的には、L：女性の同性愛者(Lesbian)、G：男性の同性愛者(Gay)、B：両性愛者(Bisexual)、T：こころの性とからだの性との不一致(Transgender)が知られている。



2 社会における人権教育・啓発の推進

- 同和問題に加え、新たな人権問題への取組を盛り込んだ伊万里市人権教育・啓発に関する基本方針に基づき、人権に関する教育や啓発の効果的な展開を図ります。
- 市民をはじめ社会教育団体や企業を対象とした人権問題やハラスメントに関する研修会や講座などを開催し、人権に関する理解の促進や指導者の育成に努めます。

3 学校における人権教育の推進

- ひとりひとりの個性を認め合う知識と心を育むため、幼児期からの発達段階に応じた人権教育をはじめ、学校生活でのあらゆる機会を捉えた人権教育を推進します。また、人権教育についての教員の知識や指導力の向上に努めます。
- 学校教育の中で培われてきた成果などを有効に活用し、人権教育を進めるための教材の開発に努めます。

4 相談・支援体制の充実

- 人権侵害に関する市民の不安や悩みに対処するため、関係機関等と連携し、相談・支援体制の充実に努めます。

5 虐待や暴力、ハラスメントの根絶

- 虐待や暴力、ハラスメントなどは、犯罪となる行為を含む重大な人権侵害であることから、講演会等の開催や若い世代への予防教育の実施など、継続的で効果的な啓発を推進します。
- 被害者の支援にあたっては、被害者の安全確保と人権尊重のため、相談への対応から保護、自立支援など、多くの段階にわたって関係機関との連携を強化し、被害者の立場に立った支援に努めます。

6 インターネットモニタリング⁵⁵の推進

- インターネット上の人権侵害情報をいち早く発見し迅速な削除につなげるインターネットモニタリングに取り組みます。

市民の 役割

- 人権問題に関する学習会などに参加し、正しい理解や認識を持ちましょう。
- 人権問題をみずから問題と捉え、態度や行動に表れるような人権感覚を養いましょう。
- 虐待などの重大な人権問題に気づいた場合は、躊躇せずに警察等の関係機関へ通報しましょう。

関連する個別計画

伊万里市人権教育・啓発に関する基本方針
伊万里市男女協働参画基本計画
伊万里市高齢者福祉計画、伊万里市障害者計画
伊万里市子ども・子育て支援事業計画
伊万里市地域福祉計画・地域福祉活動計画

⁵⁵ インターネットモニタリング：インターネット上の匿名掲示板やSNS等での差別を助長する書き込みや、特定の人への誹謗中傷についてモニタリング（監視）すること。

施策 12 文化財の保護

施策の目指す姿

歴史や文化を通じて郷土の素晴らしさを伝え、まちづくりや地域の活性化にもつながる貴重な文化財の価値や魅力を広く市内外に伝えながら、後世に引き継いでいくことができる「まち」を目指します。

市の現状と課題

現状

- 本市には、県内最古の神社建築である田嶋神社本殿などの建築物をはじめ、松浦党ゆかりの山ノ寺遺跡などの史跡、明星桜やカブトガニの繁殖地などの天然記念物、府招浮立をはじめとする民俗芸能など、さまざまな文化財があり、それぞれの地域で市民団体などによる保存継承活動が行われています。
- 九州最大の黒曜石原産地である腰岳においては、平成26年(2014年)に民間による調査研究グループが組織され、先史時代の遺跡にかかる調査研究が実施されています。
- 窯跡では、盗掘などの悪質な被害が発生したことから、地元保護団体などと連携し、警告看板や防護柵の設置、防犯に向けた啓発活動を行い、被害は大きく減少しています。
- 発掘調査で出土した石器や土器、陶片などを保管している施設が老朽化しており、また収蔵能力が限界に近づきつつあります。

課題

- 文化財の保存伝承において、広く市民の参画を得た有意義な取組を展開するため、市民の関心や理解を深めることが必要です。
- 伊万里の歴史を正しく理解するため、過去の発掘調査の成果や貴重な出土遺物の積極的な活用が必要です。
- 民俗芸能などに関しては、指導者の高齢化や後継者不足による活動の存続が心配され、住民や学校など、地域をあげた伝承活動を促進することが必要です。
- 窯跡や文化財における悪質な被害の未然防止に向けた取組のなお一層の強化と保護・継承のためには、地域住民の積極的な参画が必要です。
- 地域住民と緊密に連携しながら多種多様な文化財を把握し、これらを総合的に保存活用する計画の策定が必要です。
- まちに愛着や誇りが持てる郷土愛教育の充実を図るとともに交流人口を増やすため、鍋島焼や黒曜石など他の地域にない市の歴史、文化について発信することが必要です。



取組方針

1 文化財の保存

- 伊万里を特徴づける黒曜石や近世肥前窯跡などの文化財調査を計画的に進め、これにより価値が明確になった文化財は、講演会や説明会などにより、広く市民への公開に努めます。
- 学術的価値が高い文化財は、積極的な指定に努め、適切な保護を図ります。
- 文化財の保護においては、市民の関心、理解を高め、後継者の育成と伝承活動を促進するため、郷土学である伊万里学を基にした特別講座などの学習の機会を提供し、学校や子ども、地域からの積極的な参加を働きかけます。
- 文化財の整理作業や資料・記録の保管、発掘調査などで出土した貴重な文化財を保存し活用する施設の整備を検討します。

2 文化財の活用

- 国史跡大川内鍋島窯跡については、歴史文化を活用し地域振興に寄与するため、史跡整備を積極的に進めます。
- 腰岳の黒曜石や鍋島焼など、本市を代表する特徴的な文化財の重要性を伝える講演会やシンポジウムなどの開催をはじめ、文化財を活用した体験学習など教育機会の創出に努めます。
- 歴史民俗資料館や伊万里・鍋島ギャラリーなどでは、郷土の歴史や伝統文化、自然に関する展示の充実を図るとともに、郷土についての市民の理解の促進はもとより、対外的な魅力発信に努めます。
- 多種多様な文化財を次世代に確実に継承するため、市の関係部署や関係機関・団体と連携し、地域経済の活性化も見据えた総合的な保存活用計画の策定に向けての調査や研究を進めます。

市民の役割

- 地域における伝統芸能などの保護に取り組みましょう。
- 伊万里の歴史や文化などの学習活動や研究活動に参加しましょう。
- 市の歴史、文化を学び情報発信しましょう。